

令和4年度学校自己評価システムシート (県立浦和東高等学校)

目指す学校像	確かな人間力と教養を育み、生徒一人ひとりが自己の探究と実現ができる学校
--------	-------------------------------------

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 学力の向上をめざし、授業改善と主体的な学習習慣の確立を進める。 2 自律心と規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3 自己探究により進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4 保護者・地域連携と情報発信を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。 5 ICT活用指導力の向上とICT環境の整備、学校教育活動のデジタル化を進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者	5名
生徒	3名
事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	①学習指導要領改訂に伴う新教育課程への移行を円滑に行うとともに、コロナ禍においても主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。 ②生徒の意識改革を図り、家庭学習時間を増加させる。	①生徒の興味・関心・意欲を引き出す授業を展開している。 ②学習と部活動を両立させる。	①・年次研修対象者、未来学び研究者をはじめ多くの教員による積極的な授業公開の実施。 ・生徒への授業評価アンケートの実施。 ・校外で開催される各種研修会への参加。また、そこの学びを還元した授業実践と研修受講報告会の実施。 ・ICTを活用した授業及びオンライン授業についての授業見学や意見交換の実施。 ②・各教科における課題等の提示を検討し、家庭学習の時間を確保する。 ・部活前後の学習室の積極的な活用を促進する。	①・主体的・対話的な展開の授業を取り入れられたか。 ・生徒による授業評価アンケートの結果から授業改善の成果が見られたか。 ・ICTを活用した授業を行うことができたか。 ②・授業以外の学習の時間が増えたか。 ・学習室利用者は増加したか。	・新型コロナウイルス感染症の感染を防止する観点から、ICTを活用しながら新しい授業形態の構築に向けて工夫が図られた。 ・出席停止等の生徒に対して、オンラインを活用して授業を配信するなどの対応が定着した。 ・生徒の学校評価アンケートにおいて、授業以外の学習が習慣化(毎日1時間以上)している生徒は、そう思う8.2%、どちらかというと思う15.1%の合わせて約23.3%であった。	B B
2	①遅刻、交通事故件数ともに減少させることができているが、ゼロではない。TPOを意識した言動や行動ができていない生徒が少なからず存在している。自律心と規範意識を高める指導を進める。	①交通ルールの周知徹底と基本的な生活習慣の確立に取り組む。	①・定期的な立哨指導の他、危険地点での立哨指導の回数を増やす。 ・遅刻、交通事故防止の観点から10分前登校を促す。 ・教員からの積極的な投げかけによって、生徒がTPOを意識した言動、行動について考え、行動する機会を増やしていく。	①・遅刻、交通事故件数の推移 ・指導部による日常の学校生活での観察や、担任、教科担当、部活動顧問との情報共有。	・交通安全に関する講話を複数回実施し交通ルール順守の徹底をはかった。苦情は1か月に1回程度よせられた。交通事故は9件、前年度比で4件減少した。 ・集会だけでなく登下校や、課外活動時など様々な場面で声掛け指導をすることで、TPOを意識して行動できる生徒が少しずつ増えてきた。(特に整容、挨拶)	B
3	①多岐にわたる生徒の進路を実現させるとともに、多様化する入試制度に向けて、計画的・系統的な進路指導を実践する必要がある。 ②新しい入試制度に対応できるような資質・能力の養成に努める。	①個々の進路実現を踏まえ、多面的に指導にあたる。 ②「学力の3要素」に基づいた進路指導を行う。	①・スタディサポートや実力診断テスト、各種模擬試験等を実施し、生徒の進路意識を高める。 ・個々の進路希望に応じて、進路補講や面接・小論文指導を行う。 ②・SD「総合的な探究の時間」等を活用し、生徒が主体的に自分の将来について考え、自らの意思を発信できる能力を養う。 ・分野別説明会や進路レポート等を活用し、進路実現に必要な情報を収集し、課題解決に向けて努力する姿勢を養う。 ・チャレンジ検定等を活用し、資格・検定試験の受験を推進する。	①・進路行事、進路結果満足度は90%を超えたか。 ・スタディサポートや実力診断テストを進路指導に上手く活かされたか。 ・GMARCH以上の大学合格者を輩出、4年制大学進学者6割程度、民間就職100%を実現できたか。 ②・探究活動やガイダンス等を通して、主体的に考え、自ら発信する力を伸ばすことができたか。 ・より多くの生徒が資格・検定試験に挑戦し進路に活かすことができたか。	・進路結果満足度は95%、進路行事への積極的な参加については83%と昨年度よりも5%増加した。 ・生徒の進路希望に応じた補講や小論文・面接指導を実施することができ、進路指導に対する生徒の評価は90%を超えている。 ・国公立大学1名、4年制大学合格者は172名、公務員採用4名、民間就職者は3名で就職内定率は100%であった。(12月末現在) ・チャレンジ検定(1年:漢字検定、2年:英語検定)実施に向けて、授業における受験対策を行い、生徒の意識を高めるとともに、合格率アップに努めた。	A A
4	積極的に本校の素晴らしさを外部に発信する。	コロナ禍における40周年記念式典・学校説明会等の実施方法を工夫し、開催する。	・安心・安全に配慮した年4回の学校説明会・部活動体験等の開催。 ・校外で開催される高校説明会等への参加。 ・HPを改善するとともに、学校行事等のリアルタイム更新による情報発信。 ・地域活動への積極的な参加。 ・感染症対策を徹底したうえで40周年記念事業の実施。	・学校説明会などを通して本校への理解が深まり、進学意欲が高まったか。 ・学校説明会の工夫・改善が図られたか。 ・志願者数が増加できたか。 ・40周年記念事業を成功できたか。	・実施を予定していた計4回の学校説明会とUE夏フェス(各部活動体験)を、HPで事前に参加者を制限するなど感染防止対策の徹底を図りながら実施することができた。本校進学希望者1.4倍(R4.12.15現在) ・地域関係者・保護者等が参加して創立40周年記念式典を開催し、本校の魅力を外部へ発信した。	A
5	授業等におけるICTを活用できる環境は整ってきたので、この環境を活用した授業等の教育活動を模索していく。	ICTを活用した授業を実施し、授業のオンライン化や課題などの配信方法を工夫する。	・多くの学年、組、授業でのGoogle Classroomのクラスを作り、生徒を参加させる。 ・学級閉鎖時や出席停止の生徒を対象に課題や授業の配信を工夫する。 ・ICTを活用した授業等、教育活動の工夫に取り組む。	・Google Classroomのクラスを多くの単位で作ることができたか。 ・オンライン授業や課題発信を実践したか。 ・授業等でのICT活用は増加したか。	・Google Classroomを活用し、課題配信、オンライン授業の実施など対応することができた。 ・全教員に対して指導用タブレット(surface)の利用を呼びかけ、積極的なICT活用を促した。	A

学校関係者評価	
実施日	令和5年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
授業評価アンケートにおいて、生徒が主体的・対話的な展開の授業に関する評価項目、ICTの活用に関する評価項目を設定し、その取組の進捗状況が評価できるよう改善を検討してはどうか。また、次年度から一人一台タブレットの導入に伴う効果の検証を検討してはどうか。	・コロナ禍においても引き続き『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた効果的な展開について、各教科で工夫を促し、授業改善につなげていく。 ・新学習指導要領の改訂に伴う新教育課程への移行が円滑に行われるよう継続して対応していく。 ・例年3割程度が学習を習慣化できているが、その他の生徒の改善を図れるよう、生徒が習慣的に学習するよう指導方法を検討する。特に部活動に加入している生徒の学習時間について課題とする。
家庭での学習の習慣化に向けた取組として、学習状況を保護者が子供とコミュニケーションが取れるよう、学校と家庭でさらに情報共有が図れる取組をお願いしたい。	交通安全に対する意識を高める取組が図られている。自転車乗車時のヘルメット着用率を高め、生徒一人ひとりが自分の身は自分で守り事故を回避する意識の徹底がさらに図れるよう取り組んでいただきたい。 ルールを守ることに、生徒主体で決めごとを作り、生徒が発信していくことなどを通じて改善を図っていくようにすることも必要ではないか。
進路指導が着実に取り組まれ、実績が積み上げてきている。入口である志願倍率が1.2倍程度で推移し、生徒・保護者の期待値が上がっていくことを前提に、出口である大学等の進路目標の上方修正も視野に入れ、さらに進路指導を充実させてほしい。	・生徒一人一人の進路希望に合わせた進路指導を行えるよう、各分野に関する情報収集に努め、随時生徒に提供することにより、生徒の進路意識を高め、早めの進路希望決定を促す。就職・公務員についても、早期対策が必須である。 上位大学合格者を増やすための対策を検討する。 ・学校推薦型・総合型入試では、小論文・面接の他、様々な課題に対応できる力をつけるため、早い時期からの指導に努める。
HPなどを中心に地域、保護者等へ多岐にわたる情報発信がされている。本校の魅力について発信できていることが、進学希望者の高倍率に影響を与えていると考える。	・学校説明会において、本校の良さをより感じてもらえるよう、感染防止対策を図りながら、プログラム内容の改善を検討していく。 ・HPの更新について、教務部の担当者以外でも学校行事等を積極的に配信できるような仕組みづくりを検討する。
創立40周年記念式典は東高だからこその素晴らしい内容だった。41年目以降の魅力発信に期待したい。	急速にICTの取組が進められ、Google Classroomの定着も図られていることは評価できる。令和5年度入学生から導入されるタブレットが、生徒の主体的な学習習慣の確立につながるような取組を期待したい。